

議長通信



中山 力弥 議長

いちご一隅を照らす

戦後、現行の地方自治制度とともに発足した地方議会制度は、地方公共団体の意思決定機関としての機能を高めてきました。

我が国では、議事機関とし

ての議会と、執行機関としての長が、独立して対等な立場で相互に牽制し、均衡と調和の関係にある首長制度が採用されています。

両者は、住民に直接選挙で選ばれますが、議会は、長に比べてより細やかに住民の声を代表することが期待されています。

「一隅を照らす」 町広報紙の年頭の挨拶でお示しましたこの言葉は、天台宗の開祖である伝教大師・最澄が、この世の全ての人びとが安泰(平和)で幸せに暮らせるように願った言葉で、どんな立

場であっても、どこにいても、世のため人のために善を尽くし、一人ひとりが自らの周りを照らしていけば、自ずと社会全体が明るくなるという教えです。

この言葉を議会活動に置き換えて考えますと、議員一人ひとりが、議会という場所で、町民のために自分の持てる能力を全力で発揮することが議員の役割であり、それが積み重なることで、住み良いまちづくりが実現されていくと考えます。議員一人ひとりが「一隅を照らす」人となることを望みます。

委員会レポート

文教厚生委員会

令和6年10月8日(火)

現状について

平成15年に発足した共生のまちづくり推進協議会は20年の時を経て当初300人の会員が、現在100人となり活動内容も少しずつ変化してきました。

現在は11のサークルがあります。あそびの広場つくしんぼ・須恵おはなし会・ロバの耳(読み聞かせ)・点訳サークル「ぶどうの会」・手話サークル「ひなたぼっこ」・音訳サークル「ひばり」・福祉活動支援サークル「ふきのとう」・高齢者支援部会・事務局支援部会・まちづくりカフェCOCO・おもちゃ病院すえです。

活動の取り組みについて

2022年5月にホームページを立ち上げて①新規会員の確保②新規サークルの定着化③広報活動の強化④会員間のコミュニケーション

シヨンの強化の4点に注力しているそうです。

おもちゃ病院運営はドクター3名・受付1名で運営。修理数が多い時は、開院日以外にも修理日を設定して修理活動をされています。点訳サークル「ぶどうの会」では、8名で分担し、広報資料「広報すえ」議会だより「わかみず」の点訳活動を行っています。視覚障がい者に届けている部数は、現在1名で、定期的に活性化センターで交流会等をしているそうです。1カ月の実施時間は、8名の総時間で40時間、パソコン8台(点字ソフト込み)を使用となっています。

調査を終えて

共生のまちづくりの会員の方が町の共生・協働・共助によるまちづくりの中心となり、動いて頂いている事、町を支えて頂いている事を再認識しました。



「共生・共働・共助の精神」
須恵町のボランティア団体活動の拠点です。

課題として、会員の高齢化や会員の獲得など、少数での活動の継続を危惧されているようです。活動に興味のある方は、新規会員に登録して頂き、活動を支援して頂けたら幸いです。



おもちゃ病院では、壊れたおもちゃを修理してもらえます



あそびの広場つくしんぼでの七夕会

議場内にスクリーンを設置

令和6年12月定例会から、一般質問をしている議員の表情をスクリーンを通して傍聴席からも見られるようにしました。

傍聴席からは議員の背中しか見ることができませんでしたが、今後は顔の見える議会を目指します。



本会議傍聴のご案内

本会議は一般に公開されており、簡単な手続きで傍聴することができます。傍聴を希望される人は、本会議当日に役場4階議会事務局の窓口にお越しください。(予約不要)

議を生でみてみよう！



次の定例議会は
3月3日からの予定です。

次号予告

次号では、3月定例会の内容(令和7年度の当初予算や事業の目玉など)を、分かりやすくお伝えします。お手元に届くのは、5月上旬です。ぜひ、ご期待ください！

すえち未来ち



作・田原ウーコ
1979年須恵町生まれ。イラストレーターとして福岡を中心に九州・東京の広告やエディトリアルにて活動中。 <http://polyworks.jp>